

議題（１）

（仮称）平和資料館のコンセプト・建設場所等

懇話会の活発な議論のため、本市が例示している別紙「（仮称）平和資料館のコンセプト・建設場所（案）」について論点を示している。

論点 1.（仮称）平和資料館のコンセプトについて

論点 2.（仮称）平和資料館の主な展示内容について

論点 3.（仮称）平和資料館の展示方法について

論点 4.（仮称）平和資料館の建設場所について

(仮称) 平和資料館のコンセプト・設置場所 (案)

本市では戦争の悲惨さや平和の大切さを市民に伝えるため、「原爆犠牲者慰霊平和祈念式典」や「北九州市非核平和都市宣言」の実施、「戦時資料展示コーナー」における戦時下の暮らしを中心とした資料の展示等、様々な取り組みを進めてきた。

戦後71年が経過し、戦争の記憶の風化が懸念されており、本市に関係する戦争の記憶を後世に伝えることが大きな課題となっている。

そのため、戦争の悲惨さを伝え、平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとなるよう、新たに(仮称)平和資料館を建設するもの。

なお、下記のコンセプト等は懇話会の活発な議論のため、例示している。

1 (仮称) 平和資料館のコンセプト

- 北九州市における戦争の悲惨さを保存・継承する施設
- 平和の大切さ、命の尊さを考えるきっかけとなる施設

2 (仮称) 平和資料館の主な展示内容

- (1) 八幡大空襲を始めとする本市の空襲に関する資料
- (2) 長崎の原爆に関する資料
- (3) 戦後の復興に向けた市民生活に関する資料
- (4) 米国国立公文書館から収集した資料

※現在のコーナーに加える主な資料

3 (仮称) 平和資料館の建設候補地

小倉北区：勝山公園の一角（関連事項・小倉造兵廠、長崎原爆の投下予定地）

他に市議会より八幡東区、門司区「めかり山荘跡地」の意見もでている。

北九州市総務局総務部総務課

(仮称) 平和資料館のあり方を考える懇話会 事務局御中

今回スケジュールの都合で出席できませんので、送付頂いた議題について、簡単な意見を提出しておきます。(戸高)

第2回(仮称)平和資料館のあり方を考える懇話会、議題についての意見

論点1、コンセプトについて

第一に、地域の歴史資料館であることを中心として、地域と戦争との関りという点を明確にする必要がある。この基本の上で、戦争の惨禍、市民の労苦、生命の尊さなどを、客観的に伝える施設であることが大切である。

論点2、主な展示内容について

展示内容は、北九州、すなわち地域独特の内容を中心とするべきで、戦災は日本中の都市で被っているので、どこの都市の空襲被害展示も似たようなものになる傾向がある。新設の施設であるならば、ここでしか見られない、という、特色ある内容を追求しなければならない。一般論的な展示では、日本中にある類似施設が1か所増えるだけに終わる恐れがある。何がここでしか見られない、にあたるかは、今後検討を深める必要がある。

論点3、展示方法について

歴史展示は、事実が全てであるので、淡々と資料を見せる展示方法で良い、いたずらにドラマを要求することは、来館者に一定の意見を押し付けることになりかねない。設置者の意向は極力控える方向がよい。展示で最も気を付けるべきなのは、資料が本物であるか、説明が正確であるかである。当然ながら展示構成には一定の演出的な要素も必要ではあるが、演出が過度にならないようにすべき。

論点4、建設場所について

建設場所は、市が決めることであるが、施設のコンセプトと設置場所の関連において、歴史的な必然性は考慮されるべきである。同時に来館者の利便性も重要な要素であることを考えると、現在検討されている候補地の中では、小倉城内が最も良い場所と考えられる。